

## IX

## 大学運営

## 推進分野の背景と方向性

技術革新が急速に進む激動の社会を豊かに生き抜く力を身につけるために、高等教育の果たす役割は大きい。しかし、少子化の加速が著しい現実のもとでは、大学の経営が成り立たなくなる事態の到来も予想され、実際に学校法人の組織再編や法人統合等の事例も増えつつある。この「大学冬の時代」という困難な状況にあっても、建学の精神を後世に受け継ぎ、教育・研究理念を継続して実践していくためには、経営力及び組織力の強化を実現することで競争優位性を備え、本学が選ばれ続け生き残る必要がある。また、教職員が安心して活動できる環境を構築することは、本学に誇りを持ち、愛校心をさらに深めるために重要となる。



## 推進事項 1

## 危機管理体制の構築

大規模自然災害や感染症が発生した際に、迅速かつ的確な初動対応を取ることができるよう既存の各種マニュアルや計画等を社会環境等に合わせ不断に見直しを行う。また、それらに即した訓練を継続的かつ計画的に行うことで、不測事態の発生時にも学生・教職員の安全を確保し、法人運営及び設置校の教育・研究活動を円滑に継続できる体制を整備するとともに、地域住民等の受入体制も併せて確立する。また、学校法人は、関係する様々な法令等に基づいて事業を運営しており、社会からの信頼を高め、公正・透明な運営を図るためにも、教職員がコンプライアンスや学内諸規則に即して適法かつ適切に業務を進めるとともに、リスクマネジメントの視点も取り入れつつ、ハラスメントや不祥事の生じない健全な風土形成に取り組む。その他学生・教職員の安全を守るために、防犯体制を確立する。

## 主な施策

- 1 大規模自然災害に対応可能な防災体制の構築
- 2 コンプライアンス活動の推進
- 3 安定的な情報インフラ体制の構築と情報セキュリティ対策の推進

## 推進事項 2

## DX (デジタル・トランスフォーメーション) の推進

社会全体のデジタル化の趨勢に合わせ、大学業界においてもDXの推進は喫緊の課題である。本学ではDXを、単に従来までの手法をデジタルに置き換えるだけではなく、教育のあり方や業務の構造を根本から見直す取り組みと位置付け、新たな機能や価値の創出を企図するものである。費用対効果の観点も踏まえながら、大学運営業務にRPA (ロボティック・プロセス・オートメーション) やチャットボット等のDXの手法を取り入れることで業務の効率化による教職員の作業負担軽減を図り、より創造的で政策的な業務に専念できる環境を整える。また、学生に対しては、サービスの満足度向上を図る。さらに、ペーパーレス化を推進することで、コスト削減・BCP (事業継続計画) 対策・情報伝達の円滑化を実現するとともに環境への配慮を行う。

## 主な施策

- 1 定型的な事務業務へのRPA導入とその推進
- 2 書類・印刷物等のペーパーレス化の推進
- 3 DXを活用した学生支援サービスにおける満足度向上

## 推進事項 3

## 就業意欲の向上による組織力の強化

本学が組織としてその成果を最大化するためには、個々の要員の意欲向上を図ると同時に、その能力を開発し、引き出すことが重要である。その上で、職員はSD (スタッフ・ディベロップメント) を通じて職種や役職に応じた能力開発を行い、能動的に学ぶ意欲を持った人材を支援する。他方、専任教員を対象とした人事評価制度を導入し、教育・研究に加え、課外活動・社会貢献・大学運営等を評価対象とし、取り組んだ内容とその成果に応じた評価を実施することで、モチベーション向上を図る。さらには、快適かつ健全な職場環境を整備することで、教職員の就業意欲向上と雇用の安定化を図り、本学園の永続的な発展に資するものとする。

## 主な施策

- 1 教員評価制度の導入
- 2 SDの強化
- 3 快適かつ健全な職場環境形成の促進